

牛群検定通信 No75

～平成27年度 過去最高の乳量を記録！～

1 平成27年度 牛群検定概況

平成27年は、飼料価格や初妊牛・子牛の価格の高騰、生乳需給の逼迫、離農農家の増大という厳しい酪農状況でした。そうした中で牛群検定の農家普及率は昨年と比較して横ばいで49.4%となっています。普及率の高い県は、鳥取県の81.4%を筆頭に、宮崎県、福岡県、鹿児島県が70%以上、北海道、岡山県、熊本県において60%以上となっています。検定農家の減少が多い中で戸数を増やした県もあります。富山県、福井県、滋賀県、大阪府、高知県これら5県では、昨年より検定農家戸数が増加しています。

	農家数	農家普及率	検定牛頭数	検定牛普及率
都府県	3,970戸	37.5%	187,640頭	45.8%
北海道	4,383戸	69.0%	347,363頭	75.6%
全 国	8,353戸	49.4%	535,003頭	61.4%

2 305日乳量

平成27年の305日乳量は過去最高の乳量となり、北海道と都府県ともに過去最高乳量で全国では9,450kg、対前年+68kgになりました。都府県は平成23年に東日本大震災の影響で大きく乳量を落としましたが、ようやく震災前のレベルに回復しました。

また、産次別では、年齢の能力差が出ないように分娩時の年型で成績を示しますと、2年型 8,679kg(前年差+13kg)、3年型 9,914kg(前年差+111kg)、4年型 10,234kg(前年差+108kg)、5年型 10,215kg(前年差+122kg)と、初産中心の2年型はあまり昨年成績と変わらずに、2産以上となる3、4、5年型が+100kg以上と大きく伸びています。

都府県	305日乳量	9,516kg	対前年+51kg
北海道	305日乳量	9,417kg	対前年+77kg
全 国	305日乳量	9,450kg	対前年+68kg

3 分娩間隔

分娩間隔は全国で433日と昨年から2日短縮しました。これは過去もっとも長期化した平成23年の438日からみると5日間もの短縮です。直近、4ヵ年は北海道と都府県ともに短縮傾向となっています。

都府県	分娩間隔	443日	対前年－3日
北海道	分娩間隔	427日	対前年－2日
全 国	分娩間隔	433日	対前年－2日

以上、平成27年は乳量の増加と繁殖の短縮を両立しています。